

【 設問アプローチ 】

[17 - A]

問1 : ① [設問チェック] 漢字問題。傍線部と同じ漢字を答える。

② [アプローチ] 「漢字問題へのアプローチ」に従って、本文読解中に傍線部前後の文脈から傍線部に適切な漢字を考える。そして、傍線部の近くにメモしておく。

③ [設問読解] 本文読解後、設問を解く際に②のメモを確認しながら、適当な選択肢を選ぶ。

問2 : ① [設問チェック] 傍線部について、内容説明が求められている。

② [本文読解] 傍線部を含む一文を確認する。

(1) 「Aではなく、B」構文になっている。→ この内容を本文から把握する。

(2) 「すなわち」ではじまっていることから、傍線部の内容は、傍線部までの内容を受けている。→ 傍線部の《根拠》が、傍線部までにあることが〈予測〉される。

※ 次の段落から〈意味のまとまり〉が変わっていることも、この〈予測〉の信頼度を高めるポイント。

③ [本文読解] ②から、傍線部までの内容を確認する。7～10行目が《根拠》になっており、9、10行目には「Aではなく、B」構文がある。

④ [判断基準] ③から、傍線部はBの内容になり、「ものの十秒も…はらはらする」に相当する。この部分を中心に、《根拠》を踏まえて選択肢を吟味する。

問3 : ① [設問チェック] 波線部について、表現の使い分けの説明が求められている。

② [本文読解] 波線部の含まれる7段落は〈具体例〉の段落で、その内容はこの段落内でまとまっている。→ [アプローチ] 7段落を《根拠》として、この段落内での波線部の表現のあり方を読み取る。

③ [本文読解] 7段落を通して読むと、a～cの波線部の人物は同一人物であることが読み取れる。

・ a … 「この」は、直前の「テレビで陸上…見ていた人」を指しており、指示語表現による人物の特定であると分かる。

・ b … 「見ている自分のすぐ正面で」から、筆者の視点が「テレビを見ていた」aの人物の視点に重なっていることが読み取れる。

・ c … bの重なりあっていた視点から一転して、「テレビの画面をあおいで」いるaの人物を引いた位置から見ている視点が、「彼」という表現になっていることが読み取れる。

④ [設問読解] ③の内容を説明している選択肢を、解答として選ぶ。

問4 : ① [設問チェック] 傍線部の内容を明らかにした上で、その内容を説明した例を解答する問題。

- ② [本文読解] 傍線部では、「認識」というキーワードがある。このキーワードがあるのは、傍線部を含む最終段落のみなので、《根拠》があるのはこの段落中であることを〈予測〉する。
- ③ [判断基準] 64・65行目に、「認識の世界は、対象と距離を置くことで展開する」という内容があるので、この部分を《根拠》として、この内容を踏まえて説明した具体例を選択肢から選ぶ。

問5 : ① [設問チェック] 設問を解くためのポイントを確認する。

- (1) 「この文章で」… 特定の範囲ではなく、文章全体に関わる内容の問題。
(2) 「実在性や実在感」… 設問のキーワード。本文読解で内容を把握する内容。

② [本文読解] 今回の問題文では、「実在性」や「実在感」といったキーワードが本文を通して見受けられる。そのため、内容の要点を本文中から読み取り、それを《根拠》にする。

③ [判断基準] ②から、「要約の論理語」に注目して、本文を確認する。

- (1) 37行目に「このように先方に実在性が…」とある。この「このように」は直前の「相手に向かって…行動的に接近する」を指していて、37行目までの内容をまとめている。
(2) 42行目に「このように」という指示語があり、前段落の内容を受けるとともに、その後に「抵抗」という実在感を説明するキーワードを提示している。
(3) 60行目に「このように」という指示語があり、前段落までの内容を受けて「能動的なはたらきかけ」が実在性をあたえるものであると説明している。
また、その内容を踏まえた63行目の「こうした」が、実在性があるのが「生のままの行動の世界」であると説明している。

→ 以上の内容を説明した選択肢を、解答として選ぶ。

問6 : ① [設問チェック + アプローチ] 文章全体の内容に関わる「文章の論述の進め方」が尋ねられているので、予め選択肢文のキーワードをチェックしておく。
また、本文読解中に論述の展開を意識し、チェックを入れながら内容把握を行うようにする。

② [判断基準] 選択肢文のチェックと本文中の要点や文構造のチェックとを照らし合わせて、選択肢の正誤判断をする。